

保健体育部会 研究の構想（案）

令和3年度～

I 研究主題

心と体を一体として捉え、生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる学習指導はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

学習指導要領では、心と体を一体として捉えることを重視するとともに、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを目指し、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」を重要なねらいとしている。

平成30年度からの3か年は、29年度までの研究を継続しながら、「主体的・対話的で深い学び」となる指導過程の工夫について、以下のように研究を深めてきた。

「主体的な学び」

- ・自らが運動の楽しさや健康の意義を発見し、課題の解決に向けて、粘り強く取り組もうとする指導過程を工夫する。

「対話的な学び」

- ・運動や健康についての課題の解決に向けて、他者との対話を通して、自分の思考を広げ高めていく学びの過程を工夫する。

「深い学び」

- ・自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程を工夫する。

令和3年度からの3か年は、2年度までの研究を継続しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導過程の工夫について、以下のように研究を深めていきたい。

- ・体育・保健の見方・考え方を働かせるための指導過程の工夫
- ・指導と評価の一体化に向けた単元構造図の作成と工夫

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

(1) 体育分野

健やかな体の基礎となる身体能力と知識が定着するようにし、身に付けた知識や技能を基に、その段階に応じた運動を豊かに実践していく指導の在り方の研究を通して主題を解明する。

(2) 保健分野

個人生活における健康・安全に関する内容を科学的に理解し、その知識を活用する学習活動を取り入れた指導の在り方の研究を通して主題を解明する。

2 研究内容

(1) 体育分野

- ・体育の見方・考え方を働かせるための指導過程の工夫
- ・指導の目標やその内容に対応した評価規準、評価計画の作成と指導に生かす評価の工夫
- ・指導と評価の一体化に向けた単元構造図の作成と工夫

(2) 保健分野

- ・保健の見方・考え方を働かせるための指導過程の工夫
- ・自らの健康を管理し、改善しようとする実践力を育てるための指導過程の工夫
- ・指導の目標やその内容に対応した評価規準、評価計画の作成と指導に生かす評価の工夫
- ・指導と評価の一体化に向けた単元構造図の作成と工夫

保健体育部会 令和4年度研究計画（案）

I 研究主題

心と体を一体として捉え、生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる学習指導はどうあればよいか。

（体育分野）

身に付けた知識や技能を基に、その段階に応じた運動を豊かに実践していくための指導過程はどうあればよいか。

（保健分野）

自らの健康を管理し、改善しようとする実践力を育てるための指導過程はどうあればよいか。

II 主題について

体育分野では、運動に親しむ資質や能力を培うために、運動を豊かに実践したり、自らの健康を管理し、改善しようとしたりするための基礎的な知識や技能を身に付けることや、運動の行い方を理解すること、自己の課題に応じた運動への取組について思考・判断をし、表現していくことが大切である。また、明るく豊かな生活を実践していくためには、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲と運動に親しむ態度を育成することがさらに重要となってくる。

保健分野では、生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成が大切である。また、体育分野との関連を図り、心と体をより一体として捉えられるような学習を展開し、食事、運動、休養・睡眠の調和のとれた生活習慣の形成、ストレスへの対処方法、性に関する指導等を積極的に取り入れていく必要がある。

令和3年度は、話し合いの際にタブレット端末を活用する実践が多く見られた。グループのみならず学級全体で運動の様子を振り返ることができるICT機器の有効活用が、生徒同士の意見の交流の活性化につながり、生徒自身が「動き」の理解を深めることにつながった。また、基本動作を習得するための手助けとなる補助具の活用もあった。教師自身が運動の特性を十分に研究し、生徒にとって安全で分かりやすい学習活動を提示する工夫があり、生徒自身の運動技能の行い方の理解と技能の定着につながった。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症への対策を徹底しながら、生徒が体育・保健の見方・考え方を働かせながら「主体的・対話的で深い学び」となる授業の推進に向けて、以下の2点を重点に掲げ、研究を進めていきたい。

- 1 楽しさや喜びを味わいながら授業に取り組むことのできる必要感のある学習課題の工夫
 - (1) 自ら記録の向上、競争や攻防、演技や発表等に意欲をもって取り組むことのできる学習課題設定の工夫。（意欲化を図る学習課題設定）
 - (2) 個やチームの実態に応じた適切な課題設定、自他の課題を発見できるような教師の支援、課題解決に向け、粘り強く取り組むための教師の支援の工夫。
- 2 成果の確認と次時につながる振り返りの充実
 - (1) 終末時の自己の姿を振り返り、次時の課題を見いだすことのできる教師の支援の工夫。

そして、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力の育成を目指し、これまでの研究をさらに深めていきたい。

III 研究の内容とその視点

（体育分野）

1 指導計画の工夫

- (1) 地域や学校の実態、生徒の心身の発達の段階や特性等を十分考慮し、指導計画を作成する。
- (2) 発達の段階のまとまりを踏まえ、小学校段階との接続及び高等学校への見通しを重視した系統性を踏まえた指導内容を整理する。
- (3) 指導と評価の一体化に向けた単元構想図（全体計画）の作成について周知を図る。

2 指導過程の工夫

- (1) 体力や技能の程度、性別及び障害の有無等に関わらず、様々な学習形態を工夫し、コミュニケーションを図りながら、課題解決に取り組む指導過程を工夫する。

- (2) 自己の適性に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けながら取り組む指導過程の工夫。
- (3) ICT機器を有効に活用した指導過程の工夫。

3 評価の工夫

- (1) 自他の活動を振り返り、学習の成果が分かる自己評価や他者評価を工夫するなど、よさや可能性を伸ばすことができる評価の実践化を図る。
- (2) 課題解決に向けた取組を共有化し、よりよくできるようになるためのポイントを伝え合ったり、できていることを認め励まし合う肯定的な言葉かけの場を計画的に設定したりするなど、具体的な活動場面を想定し評価を行う。
- (3) 評価規準を明確にし、単元全体の評価計画を作成するとともに、一人一人の学習状況を把握して、焦点化された評価の在り方を工夫する。

(保健分野)

1 指導計画の工夫

- (1) 指導目標を明確にして、指導内容の重点化を図る。
- (2) 小・中・高の系統性を考慮し、3年間を通じて適切に指導内容を配当し、各学年において効果的な学習を実施できるようにする。

2 指導過程の工夫

- (1) 事例等を用いたディスカッション、ブレインストーミング、心肺蘇生法等の実習、実験、課題学習等を積極的に取り入れる。
- (2) 保健・医療機関や、専門性を有する教職員等との連携・協力を推進し、多様な指導方法を工夫する。

3 評価の工夫

- (1) 追究過程を記録したノートやレポート等を生かした評価の方法を工夫する。
- (2) 評価規準を明確にし、単元全体の評価計画を作成するとともに、一人一人の学習状況を把握して、焦点化された評価の在り方を工夫する。

Ⅳ 研究 方 法

- 1 郡市ごとに研究体制を組織し、部長及び研究推進委員会を中心とした共同研究を推進する。
- 2 学校や地域の実態、生徒の発達段階等を考慮した指導と評価の計画を作成し、実践に努める。
- 3 過去の研究の成果や課題を明らかにするとともに、特定の分野、領域（種目）、内容に偏ることなく、県・地区レベルでの情報交換を積極的に行い、研究の充実を図る。
- 4 本年度の研究の成果を「研究のあゆみ」として記録し、累積を図るとともに、次年度へ生かす資料とする。

